



旅と道

このたび日本原子力研究開発機構の松枝さんよりバトンを引き継いだ茨城高専の澤井と申します。松枝さんとは互いに大学院生の頃から仲良くさせて頂いておりますが、実は松枝さんのお師匠様である高貝先生（福島大）と私の師匠（富山高専・間中先生）が兄弟弟子でして、その繋がりによって松枝さんとも現在に至るまでふんわりと交流させて頂いております。さて、そのような縁で頂いた今回の機会ですが、誌面をお借りして私のちょっとした趣味についてお話しさせていただきます。

月並みなことですが、私は旅行を趣味としています。同じように旅を好まれる方は多いと思いますが、「旅の目的」という点に注目するとおそらく相当の多様性があるように思います。私はというと、最近は各地の産業遺構や公害資料館を訪ねたりしています。何故ならば私の研究テーマは土壌や廃棄物中の有害金属の化学分析や制御に関連していますので、公害を現地で学び研究を深めるために史跡踏査の真似事をしているのです。また茨城高専では環境化学系の講義も担当しているので、このための取材も兼ねていたりします。たとえばこれまでに四大公害の被害を被った富山、新潟、水保、四日市に建つそれぞれの資料館や日立、足尾、別子の各鉱山の記念館などを訪ねたりしました。実際に歴史の現場に立ってみると、高低差などの地形、植生、空気感、その土地に息づく文化などを直接感じ、文献資料では得がたい解像度で現場を知ることができます。取材した写真をふんだんに使った講義資料の評判も上々ですし、余談に当地ならではのおいしいもののお話でも振る舞えば学生達もそれなりに興味を持ってくれるように感じます。

もう一つの旅の楽しみ方として、私の場合はその道中を楽しむことを常としています。すなわち数多ある交通手段やその組み合わせの妙を楽しみ、道を往くこと自体が目的となるのです（目的と手段がひっくり返っています）。残念ながら最近は余裕のある旅行がなかなかできずもどかしいばかりですが…。さて「旅程を楽しむ」ということで、私はかねてからスマホにインストールしたGPSロガーアプリを使用して旅の移動記録をとっています。無料のものも含めて多くのアプリが世の中に出回っておりますが、一番手軽なのがGoogle Mapでしょうか。おそらく多くの方が利用されているこのアプリですが、設定をちょっといじると「タイムライン」という名前で訪問記録とルートを記録してくれるのです（例：図1）。これがなかなか便利で「あれ、あのときどんな



地図データ：©2024 Google

図1 ある日の移動記録

縁あって熊本を訪れる機会があり、この日は水俣病資料館を訪れた後阿蘇山頂に登っているようだ。途中お土産を買うために寄ったSAの記録も残っている。

道通ったっけ？」という本人も覚えていない道の記録の後で見返すことができます。いわゆるライフログのひとつとして自分の人生の足跡を見つめ、分析するツールに使えるのではないのでしょうか（毎日職場にいる時間が長すぎることもしっかりと記録され続けています）。

そのほかにも自治体境界の通過を記録して「訪問記録」として自動的に日本地図が塗られていくものや、バッテリー消費を抑えながら「滞在した場所と時間の記録」のみに特化したものなど様々なGPSロガーアプリが存在します。旅行好きの方はご自分のスタイルにあったものをご一考いただくと旅が一段と楽しくなるかも知れません。

さて、右往左往と道草を繰り広げた本稿もそろそろ「目的地」へと導かなければいけません。すなわち、次の方へこのリレーのバトンを渡すときがやってまいりました。ということで次回のリレーエッセイは東北大学の唐島田先生にお願いしたいと思います。冒頭でお話したとおり、私は富山高専の間中先生の研究室で分析化学の道を歩き始めたのですが、なんと唐島田先生はその時の同期です。クラスメイトとして15歳の時からの付き合いですから、学会の知り合いというよりは「地元の友達」の感覚です。彼がどのようなエッセイを書かれるのかを楽しみにしつつ、筆を置きたいと思います。

〔茨城工業高等専門学校 澤井 光〕